



# ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株) 見学

## 企業訪問&先輩ゼミ

実施日:2022年11月7日  
 実施方法:Zoomオンライン  
 リーダー:理工学部物質・環境類2年 北郷 湧詞 氏  
 講演者:ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)平井研究所



### 実施概要

#### 1. 目的

本企画は企業で働く社会人の先輩からのお話を伺い、現場の業務の様子を知ることによって将来のイメージを掴むことを目的とする。

物質・環境類GFL生の中で研究・開発職に就きたいという意見が多くあった。しかし、実際に研究・開発職とは何を行っているのか、理解が不十分であった。本講演では、その研究・開発職に対する知見を深めることを目的に、化学系分野において多彩な事業を展開しているライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社で研究・開発職に従事している 氏をお迎えし、実際に従事されている業務内容や現場の様子、大学時代の生活についてなど様々なお話を伺った。

#### 2. 事前準備

予め山田氏にGFL生から集めた質問をお送りし、当日に回答していただいた。

#### 3. 参加人数

理工学部1年生1人、理工学部2年生18人、理工学部4年生1人 計20名

### 訪問先概要

ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社(LSC)は国内に4つの拠点、海外に1つの拠点をもち、工業用化学製品の創製を行っている。

注力している事業は4つあり、洗剤や化粧品などのケアケミカル事業、土木建材などのエコケミカル事業、ゴムや防着剤などのモビリティ事業、伝導カーボン素材などのエレクトロニクス事業がある(図2)。

製品は一般の消費者に向けての商流を行っているのではなく、企業に向けたB to B(企業間取引)で販売を行っている。

#### 注力する4つの事業



目指す姿: LSCのビジョン  
 「産業界顧客の次世代製品に新価値を提供するグローバルニッチトップカンパニーへ」  
講師スライドより

### 卒業生紹介

群馬大学FLC卒業生 氏

群馬大学工学部環境プロセス工学科をご卒業、同大学大学院を修了なされた。在学時はGFLの前身のFLCに所属されていた。現在は、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)平井研究所でご勤務されている(図1)。

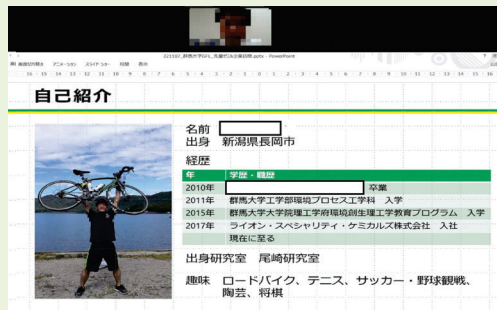


図1:卒業生自己紹介 講師スライドより

図2:LSCの事業について

### 講演内容

#### 1. 企業について

LSCがどんな製品を扱っているのか、何を製造しているのか、また山田氏がどこに勤務していて、どのような業務をされているのかについてご説明いただいた。

#### 2. 研究・開発職について

山田氏が携わっている導電性カーボンについてのお話を伺った。日常生活の中でカーボンについては意識したことは無かったが、私たちの生活に密着した物質であること、まだまだ発展が可能な魅力的な物質であることが分かった。

また、普段の研究・開発の流れについてご説明していただいた。サンプルを作るために30回以上も試行錯誤を繰り返してテストすることもあり、その後もサンプルの出来がどうか、量産できるかといったことなど検討を重ね、開発を行っているとのこと。

#### 3. 就職活動について

ご自身の就職活動についての経験と感想を伺った。また在学生に向けて、学生時代に積極的に活動しネタを作っておくと良いなど、アドバイスをいただいた。

#### 4. 事前にお渡ししていた質問への回答

最後に、事前にお渡ししていた質問に回答していただいた。大学生のうちに経験して、今役立っていることは何かや、LSCの製品についての質問などに回答していただいた。

#### 国際・国内ボランティア先での写真



図3:国際ボランティアの様子 講師スライドより

就職後にいくつもの国際ボランティアに参加されている。

ボランティアに参加することで自分とは違う価値観・感性を知ることが出来るため、経験してみると良いとのアドバイスをいただいた(図3)。

### 総括

本講演を聞き、製品化のために試験を何度も行うこと、複数の仕事を受け持ちながら多数のタスクをこなしていくことなどを実際に従事されている方から聞くことで、研究・開発職について理解を深めることが出来た。現在学んでいることだけが仕事で必要とされている訳ではなく、報告書を書く力、論理的に考える力、発表する力が必要とされる場面があることを知った。そのため、**知識をただ詰め込むのではなくそれを応用力、物事を多面的に見る力**が活躍するためには必要だと感じた。研究室での研究・学習を通じて、応用力や物事を多面的に見る力を身につけたい。

また、仕事は一人でやるのではなく多くの人が関わっているため、他の人との**コミュニケーションは欠かせない**ということが重要であると分かり、我々に必要とされている力が理解できた。コミュニケーション能力を高めるために、まずはどんな状況下でも少しでも疑問に思ったことは積極的に質問したり意見を交わすよう常に意識して、それを意識せずに慣習化できるように努めていきたい。

今後の大学生活をより良いものにするため、また、将来へ繋げるために重要な知見を本講演を通じて得ることが出来た。

### 謝辞

本企画を実施するにあたり、ご多忙にもかかわらず事前準備から実施までご対応いただいた 氏にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、群馬大学大学院理工学府環境創生部門 神成尚克先生、理工学部学務係 白石様、サポートしていただきありがとうございました。